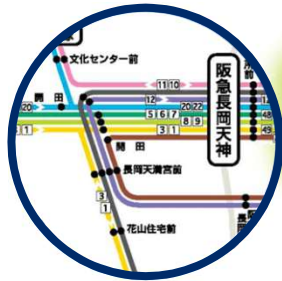


資料 4



第24回

長岡京市地域公共交通会議

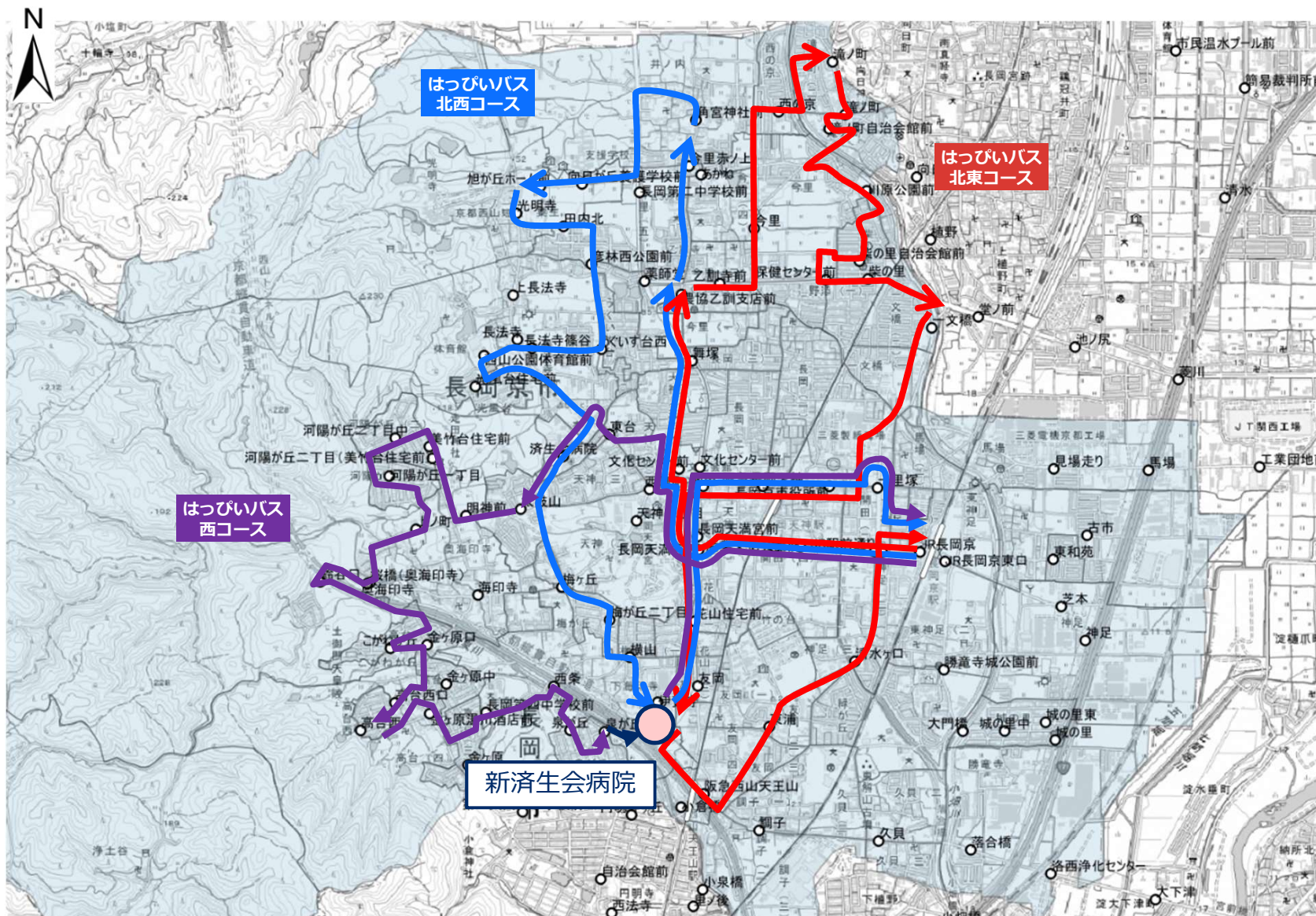
令和4年1月31日（月）午後2時15分～

長岡京市役所 大会議室A

- はっぴいバスのルート変更最終案について
- はっぴいバスの事業評価
- 東部バスの事業評価

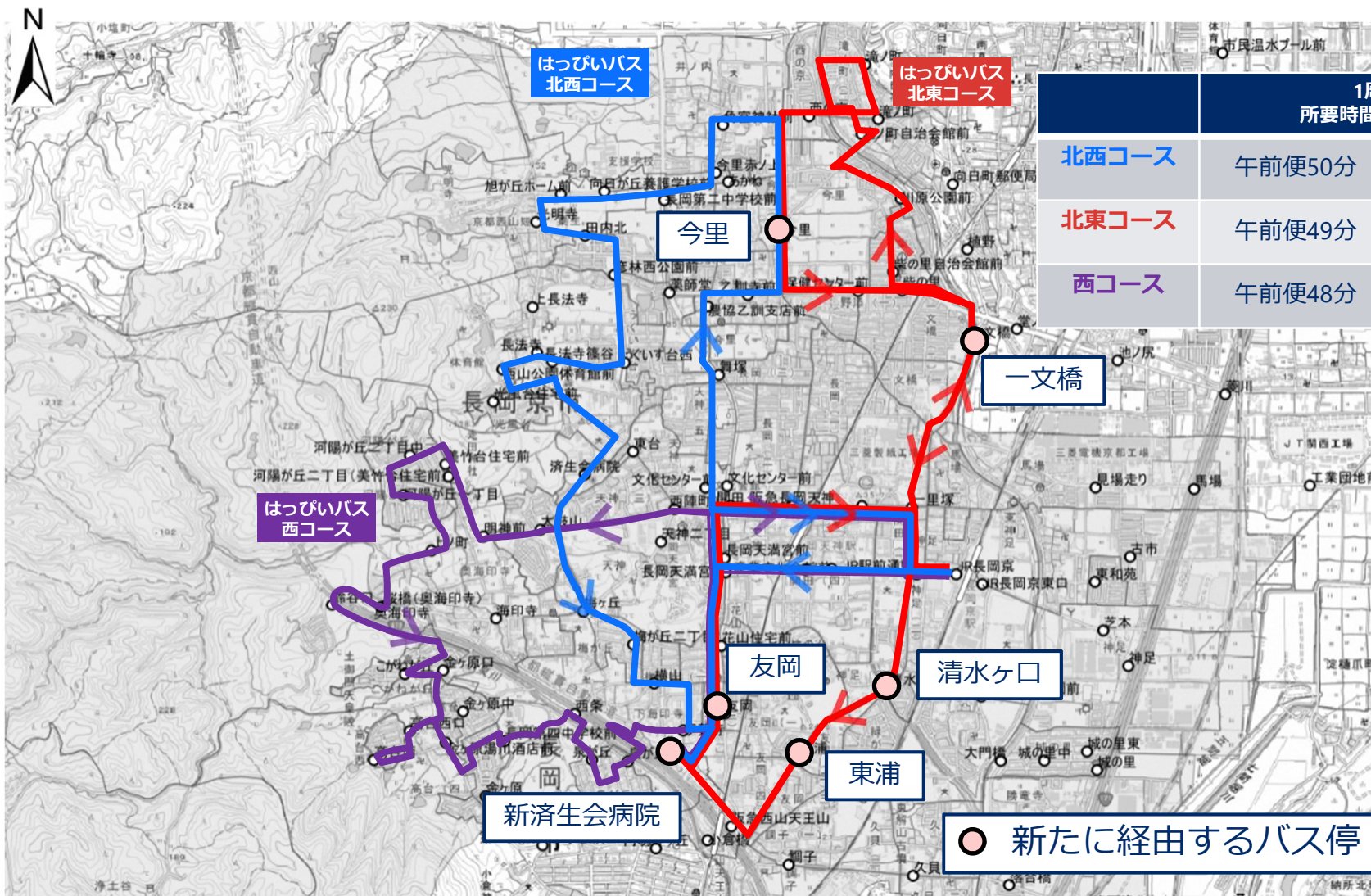
- はっぴいバスのルート変更最終案について
- はっぴいバスの事業評価
- 東部バスの事業評価

はっぴいバスのルート変更案（第22回時点）



※ 午後は逆回りに運行

はっぴいバスのルート変更最終案



	1周 所要時間 (分)	
北西コース	午前便50分	午後便48分
北東コース	午前便49分	午後便49分
西コース	午前便48分	午後便48分

※ 午後は逆回りに運行

- はっぴいバスのルート変更最終案について

- **はっぴいバスの事業評価**

- 東部バスの事業評価

評価の視点 (2項目+a)



- 1 事業の目的
 - 2 利用状況
 - ※ 収支状況
- 利用の面から
- 経費の面から

事業の目的に
沿っているか

利用者は増
えているか



収支率は？

はっぴいバスの事業指標



項目	指標	備考
事業の目的	公共交通空白地域の解消	
	多様な世代の外出支援	乗込み調査、祝日運行等
利用状況	利用状況（北コース）	1便あたりの乗車人員 15.0（人/便）
	利用状況（西コース）	1便あたりの乗車人員 15.0（人/便）
<参考指標> 収支状況	収支率（全体）	前年度収支率と比較して改善されたか

1. 事業の目的に関する評価



- **事業の目的が達成されているか**を評価

事業目的は、

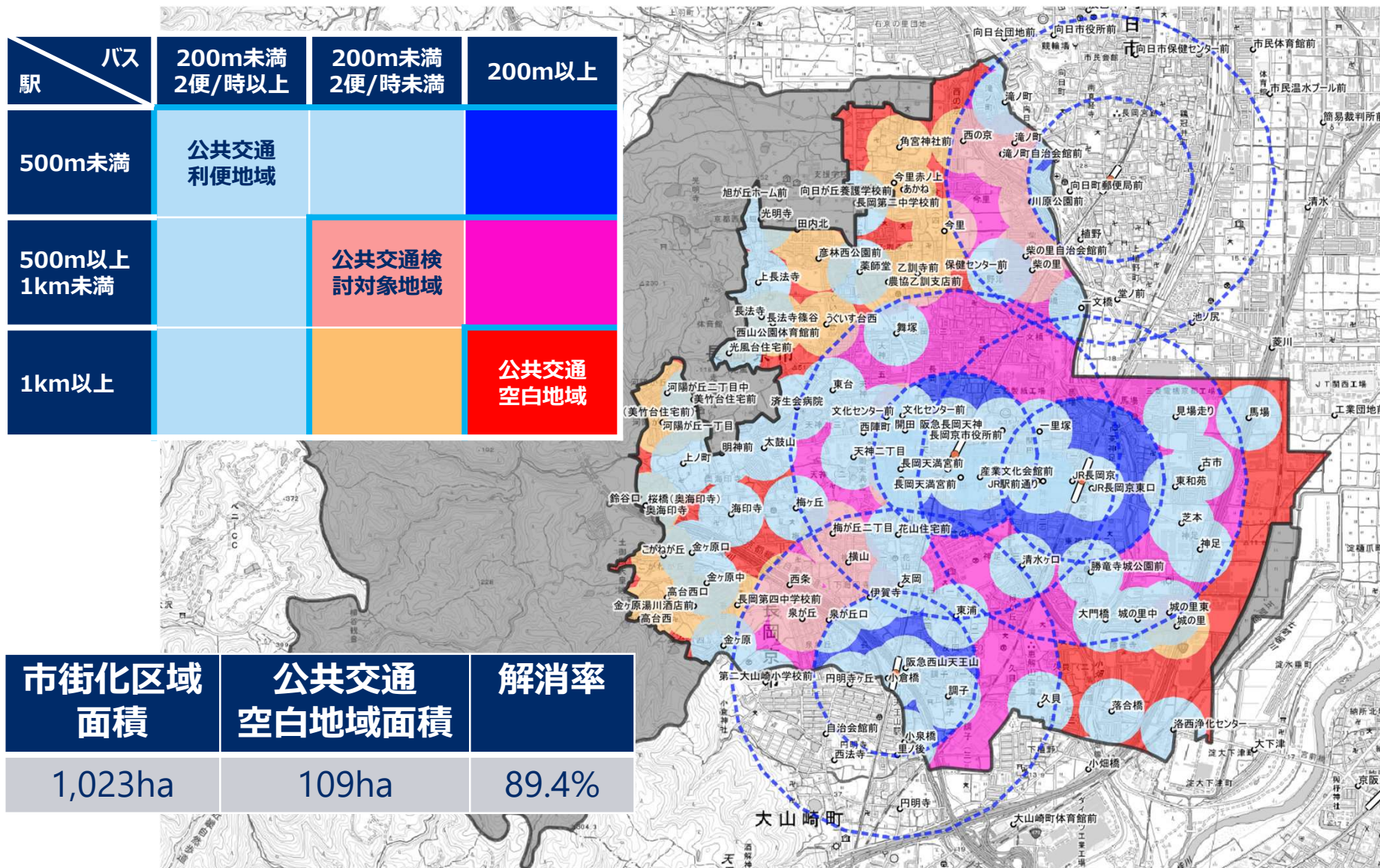
①公共交通空白地域等の解消

②多様な世代の外出支援

- 事業目的ごとに以下のような評価を実施

事業目的	評価
公共交通空白地域等の解消	事業前後で交通空白地域の解消度を比較 (以後、変化がないか定期的に検証)
多様な世代の 外出支援	利用者の外出頻度の状況を調査 はっぴいバスがどの程度貢献しているか検証

①公共交通空白地域等の解消

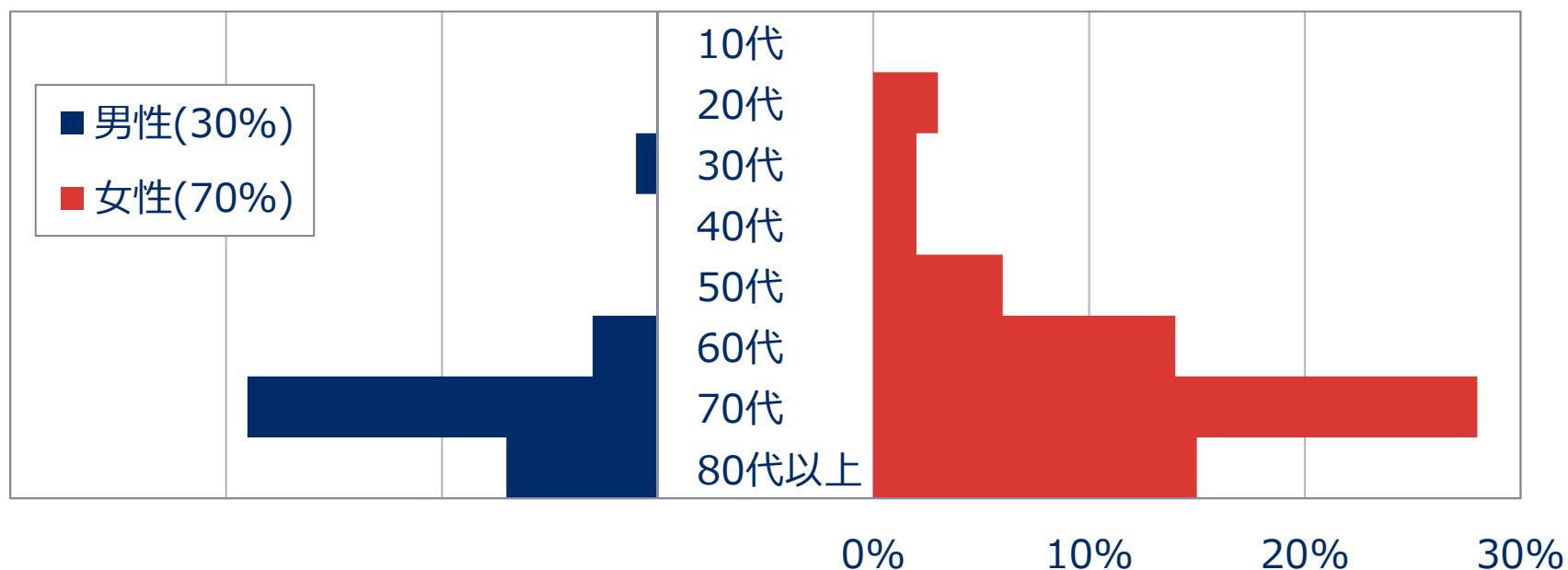


②多様な世代の外出支援 (アンケート結果から)



- はっぴいバス利用者にアンケートを実施
(昨年度は新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、実施していない)
- ・アンケート実施日：令和3年11/25(木),12/2(木),12/3(金)
- ・回答者：100人 (各コース50人ずつ)

乗車客属性

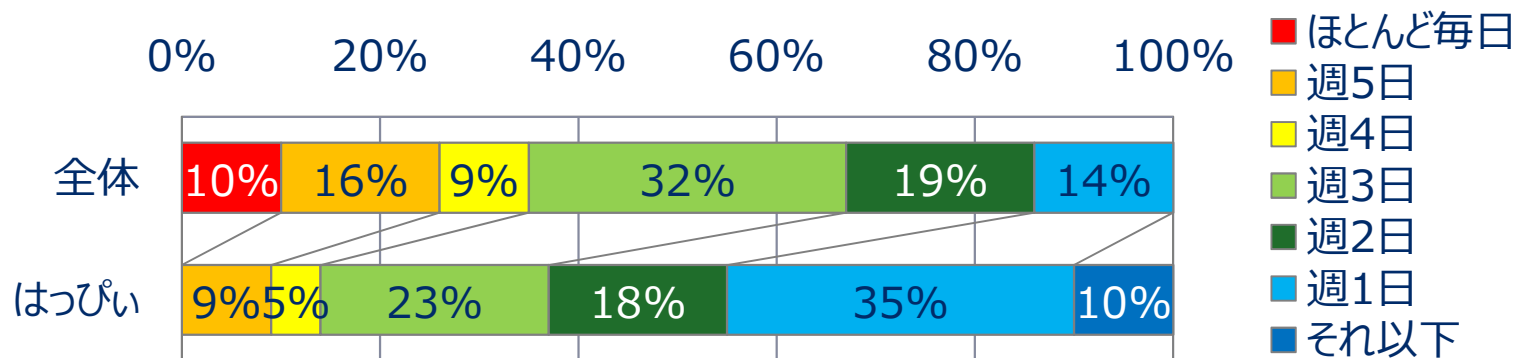


○回答者は女性のほうが多く、60歳以上の方が86%を占める。

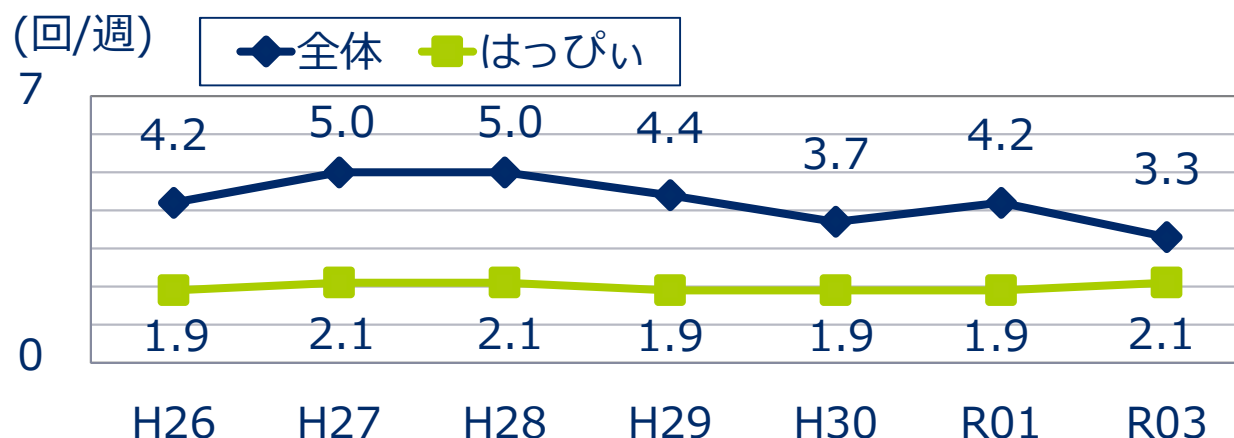
②多様な世代の外出支援 (アンケート結果から)



お出かけ頻度 (全体/はっぴいバス)



お出かけ頻度遷移

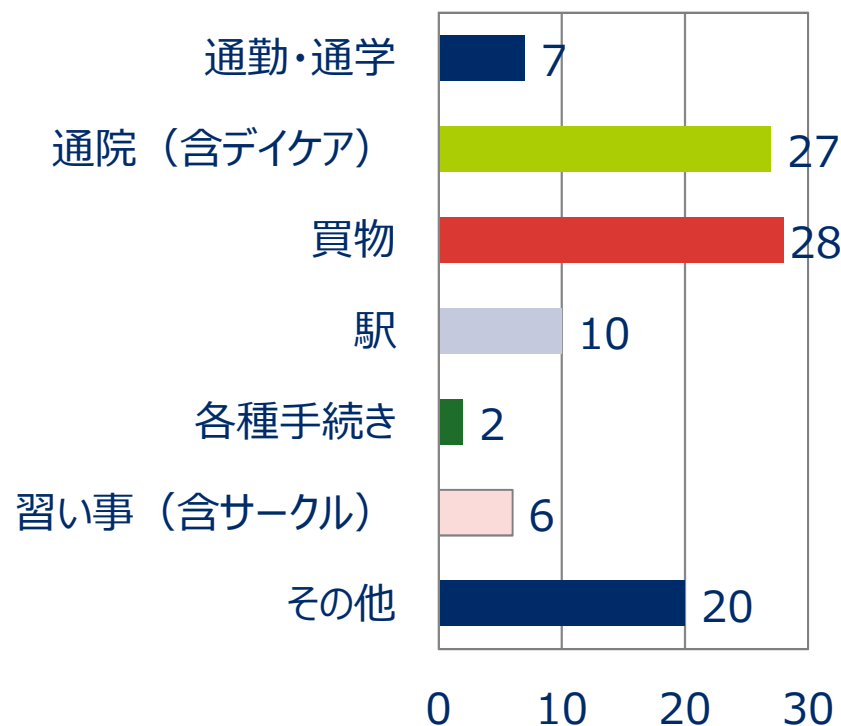


○お出かけ頻度は前回調査の一昨年度よりも少なく3.3 (回/週)、はっぴいバス利用回数は2.1 (回/週) とわずかに増加した。

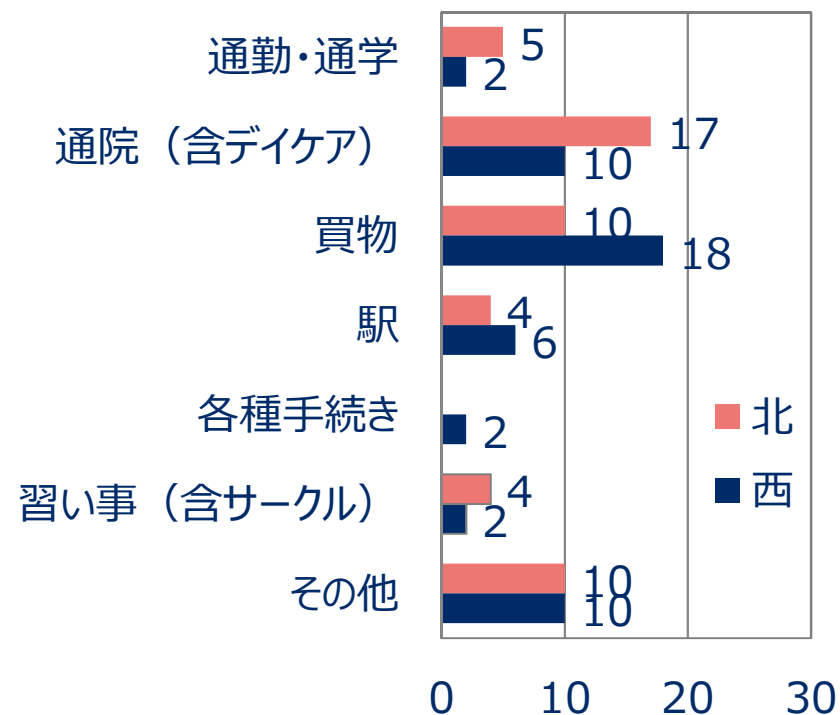
②多様な世代の外出支援 (アンケート結果から)



利用目的(SA)



利用目的【コース別】



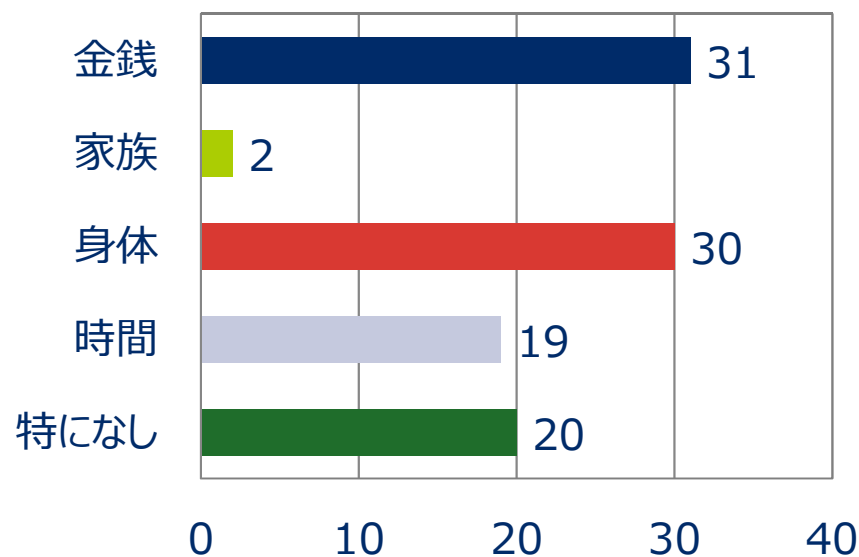
○「通院」と「買物」が1/4以上ずつで最も多く、「駅」「その他（光明寺が多かった）」と続いている。

○コース別では有意な差は見られない。

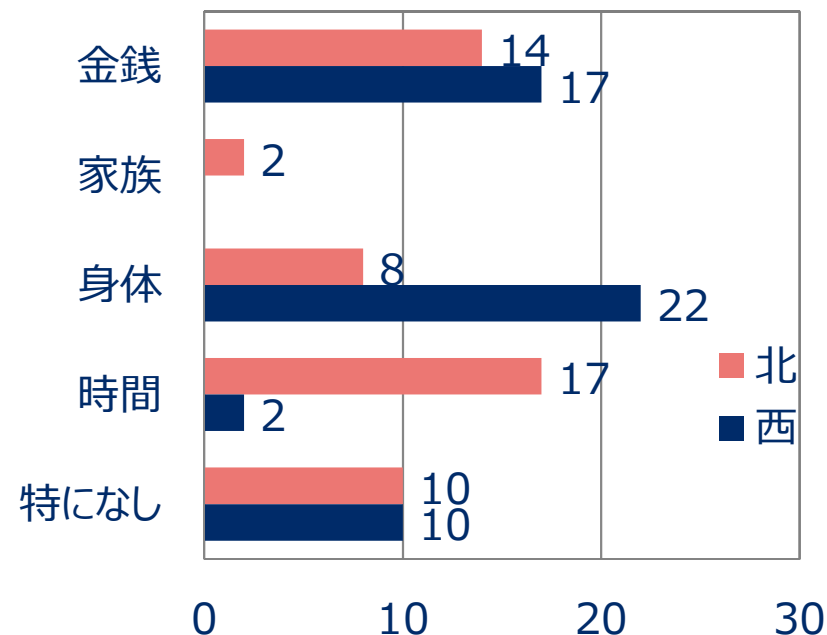
②多様な世代の外出支援 (アンケート結果から)



負担種別(n=100,MA102)



負担種別【コース別】



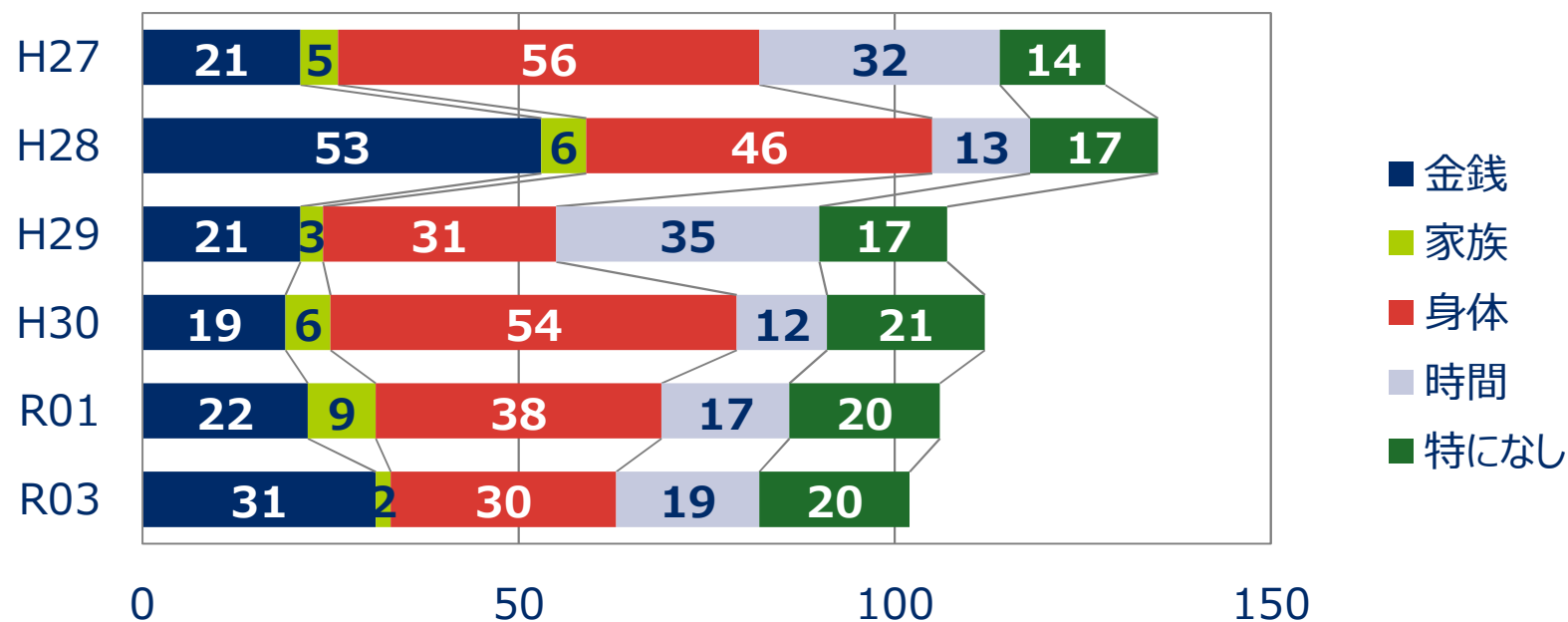
○はっぴいバスが無くなった場合の負担として、「金銭」と「身体」が同程度で最も多い。

○西コースで「身体」が、北コースでは「時間」がそれぞれ他のコースよりも多くなっている。

②多様な世代の外出支援 (アンケート結果から)



はっぴいバスが無くなった場合の負担遷移

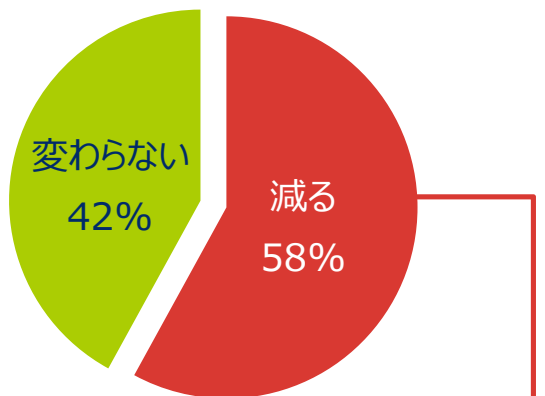


○例年、はっぴいバスが無くなった場合の負担について聞いているが、H28で「金銭」が非常に多い、H27,29で「時間」が多い、H29で「身体」が少ないなど、年度によってバラつきがある。

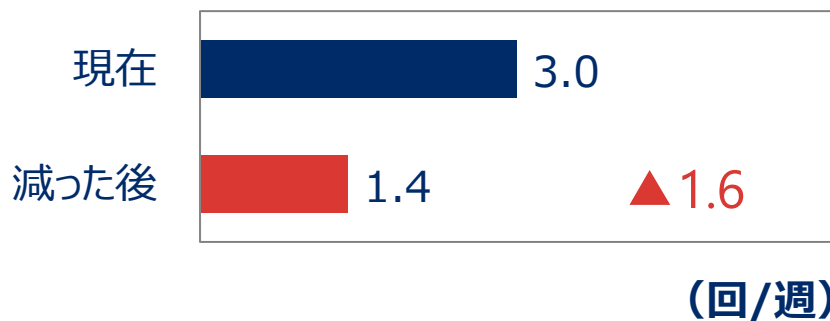
②多様な世代の外出支援 (アンケート結果から)



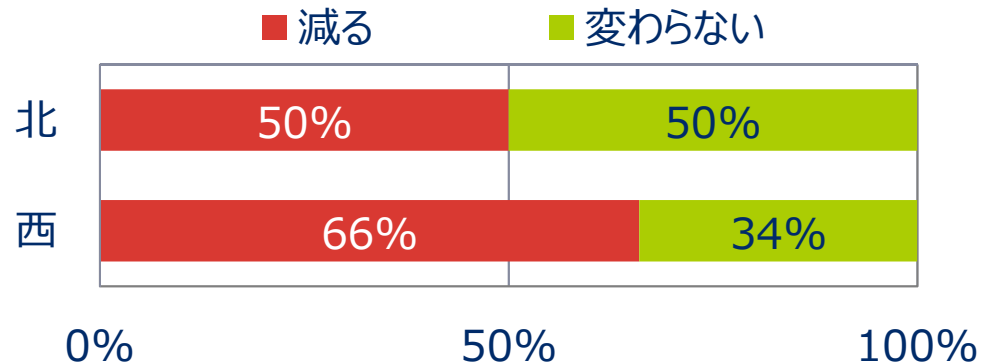
お出かけの変化



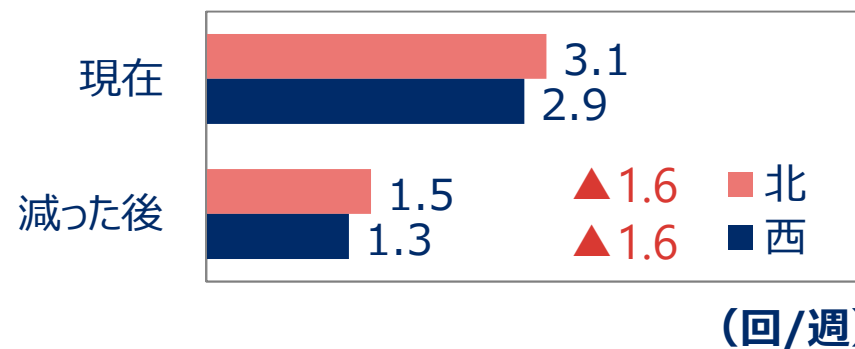
お出かけ回数の変化



お出かけの変化【コース別】

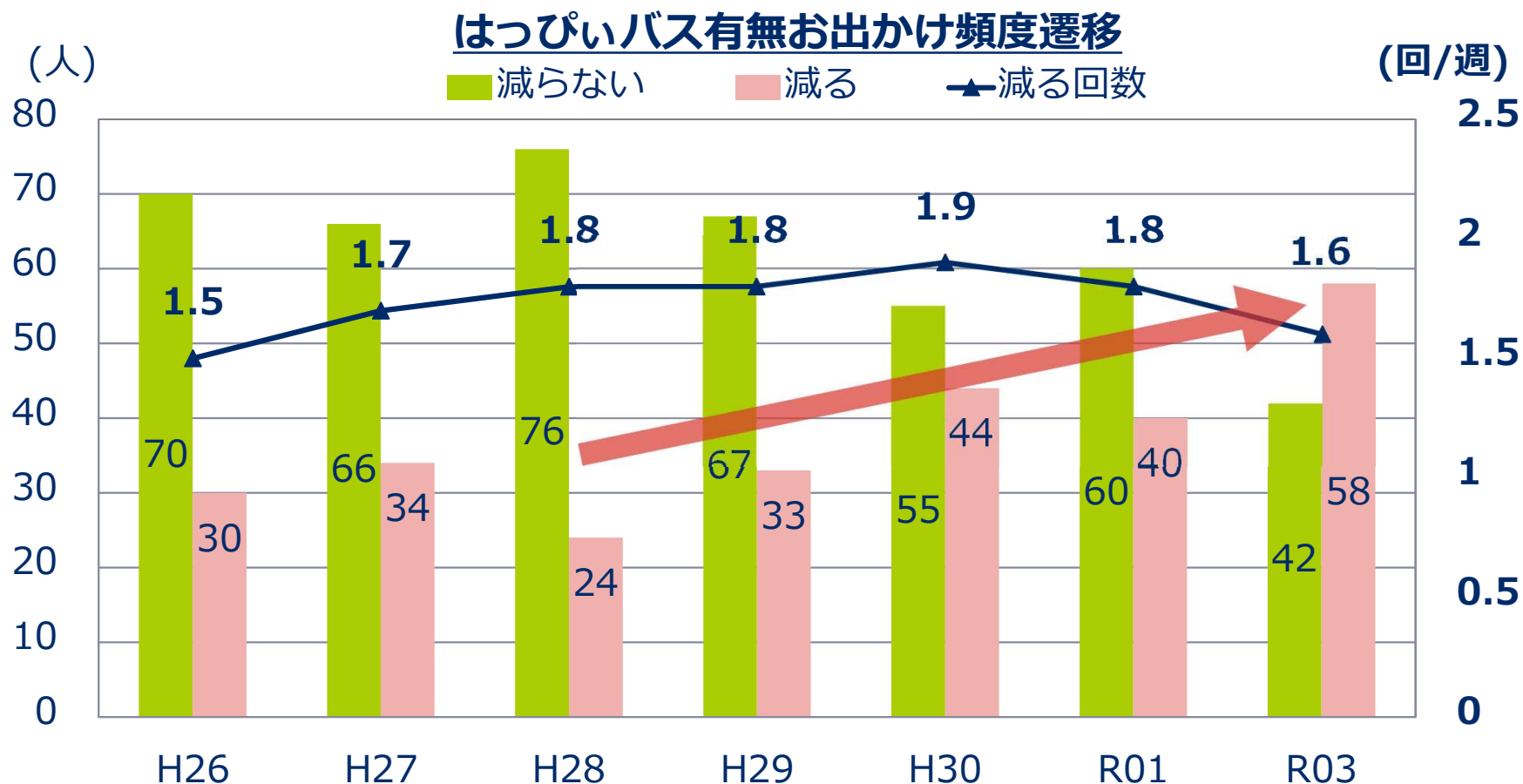


お出かけ回数の変化【コース別】



○約6割の方がはっぴいバスが無くなった場合にお出かけ回数が減ると答えており、減る回数はコースごとに差はない。

②多様な世代の外出支援 (アンケート結果から)



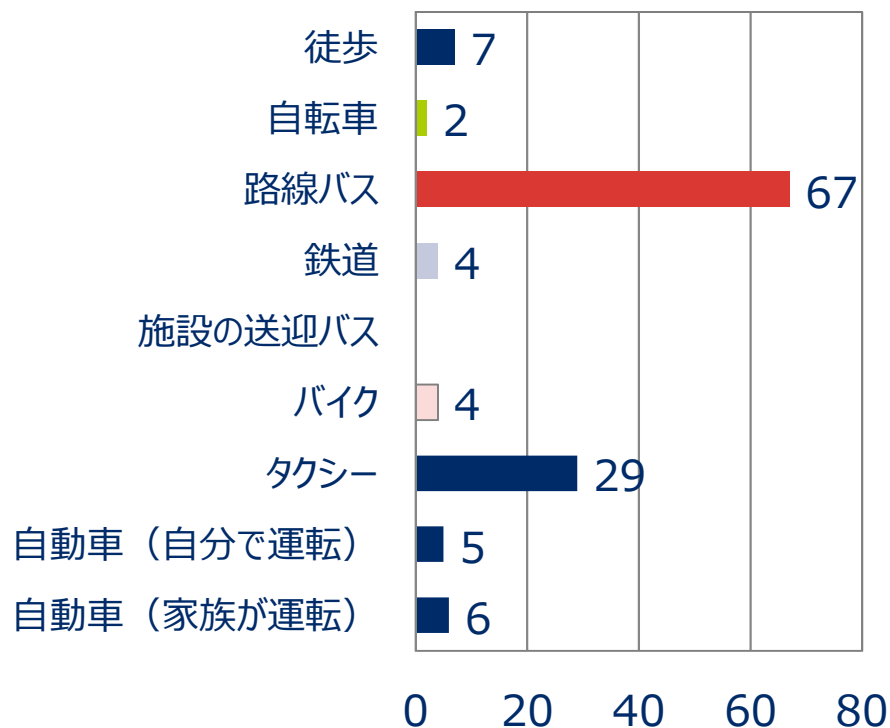
○はっぴいバスが無くなった場合、週に約1～2回おでかけが減る。

○お出かけ回数が減ると回答した割合は増加傾向にある。

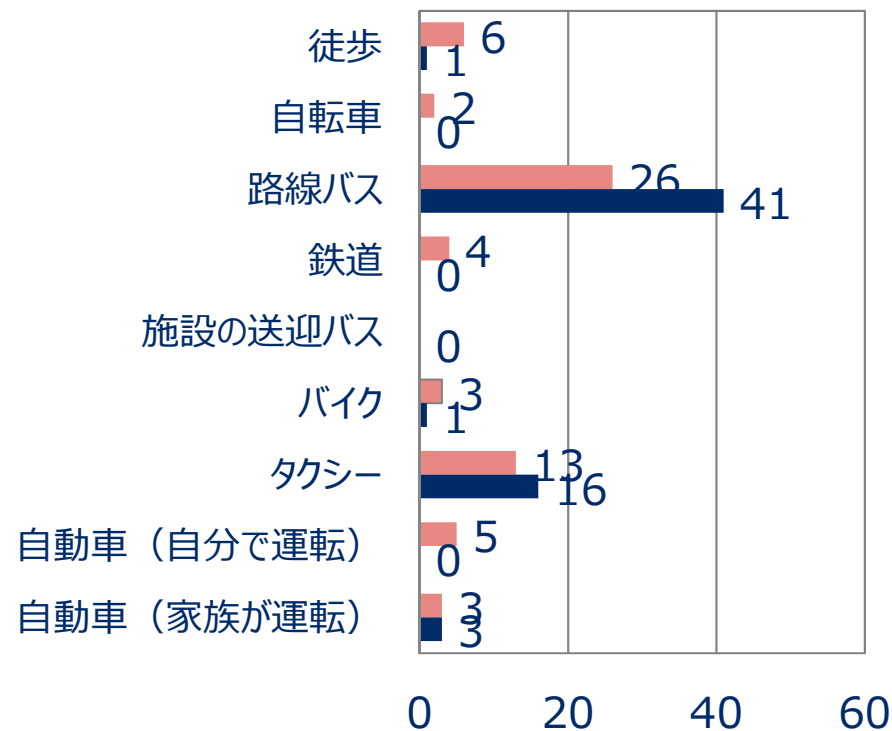
②多様な世代の外出支援 (アンケート結果から)



代替手段 (n=100, MA124)



代替手段【コース別】



○代替手段として「路線バス」が最も多く、西コースで特に多い。

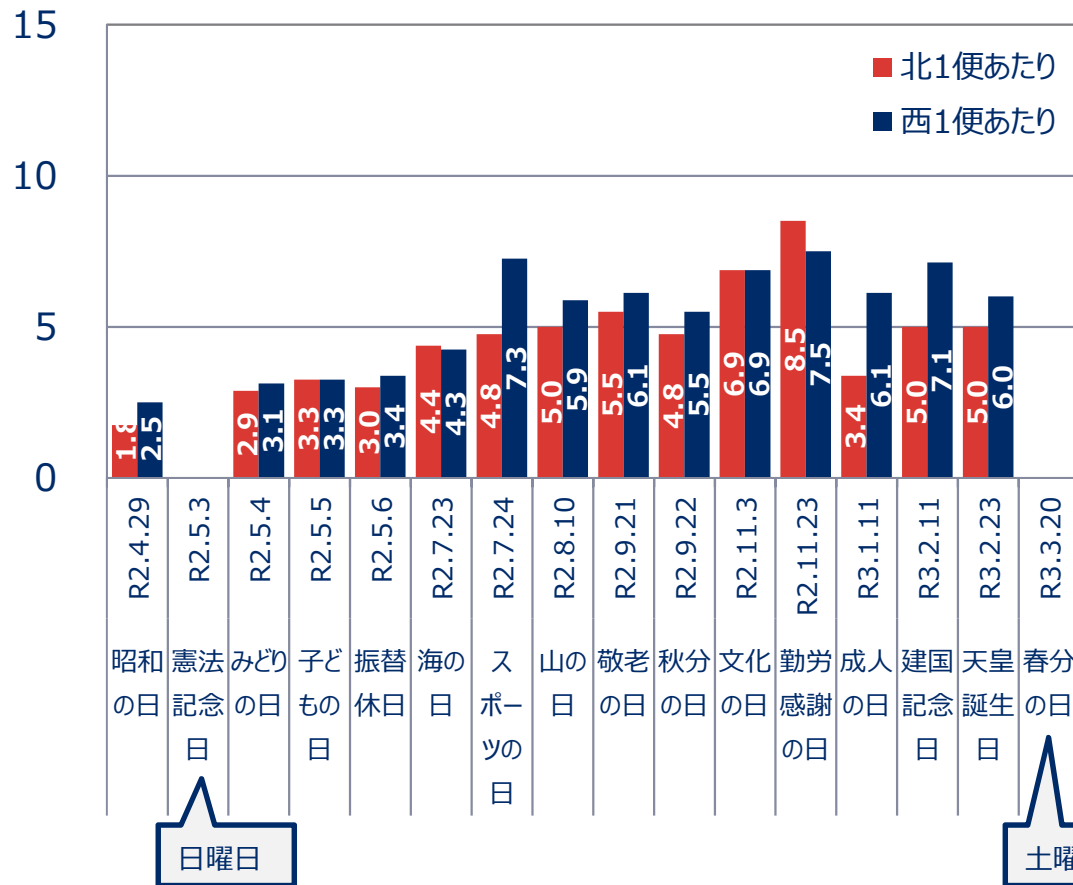
○一方で、北コースでは「徒歩」「自動車 (自分で運転)」が多くなっている。

②多様な世代の外出支援【祝日運行】



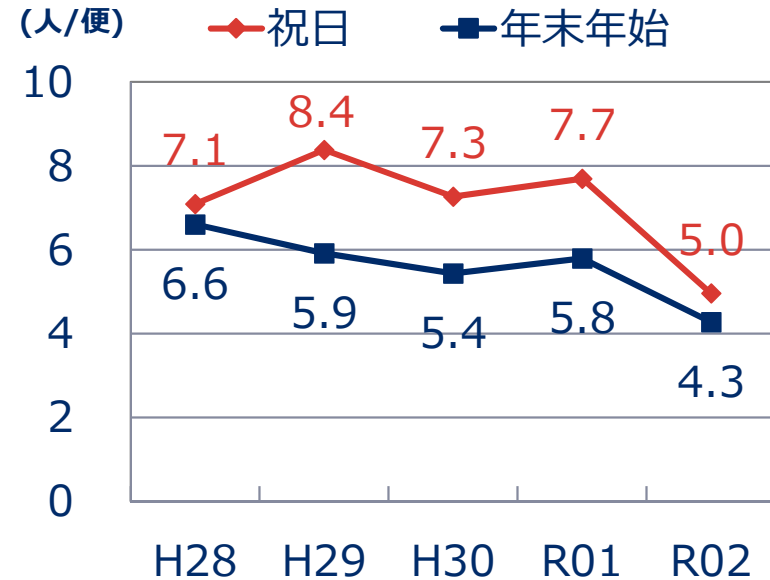
令和2年度 祝日運行まとめ (5.0人/便)

(人/便)



祝日運行等利用者数の推移

(人/便)



※年末年始特別運行 平成21年度～

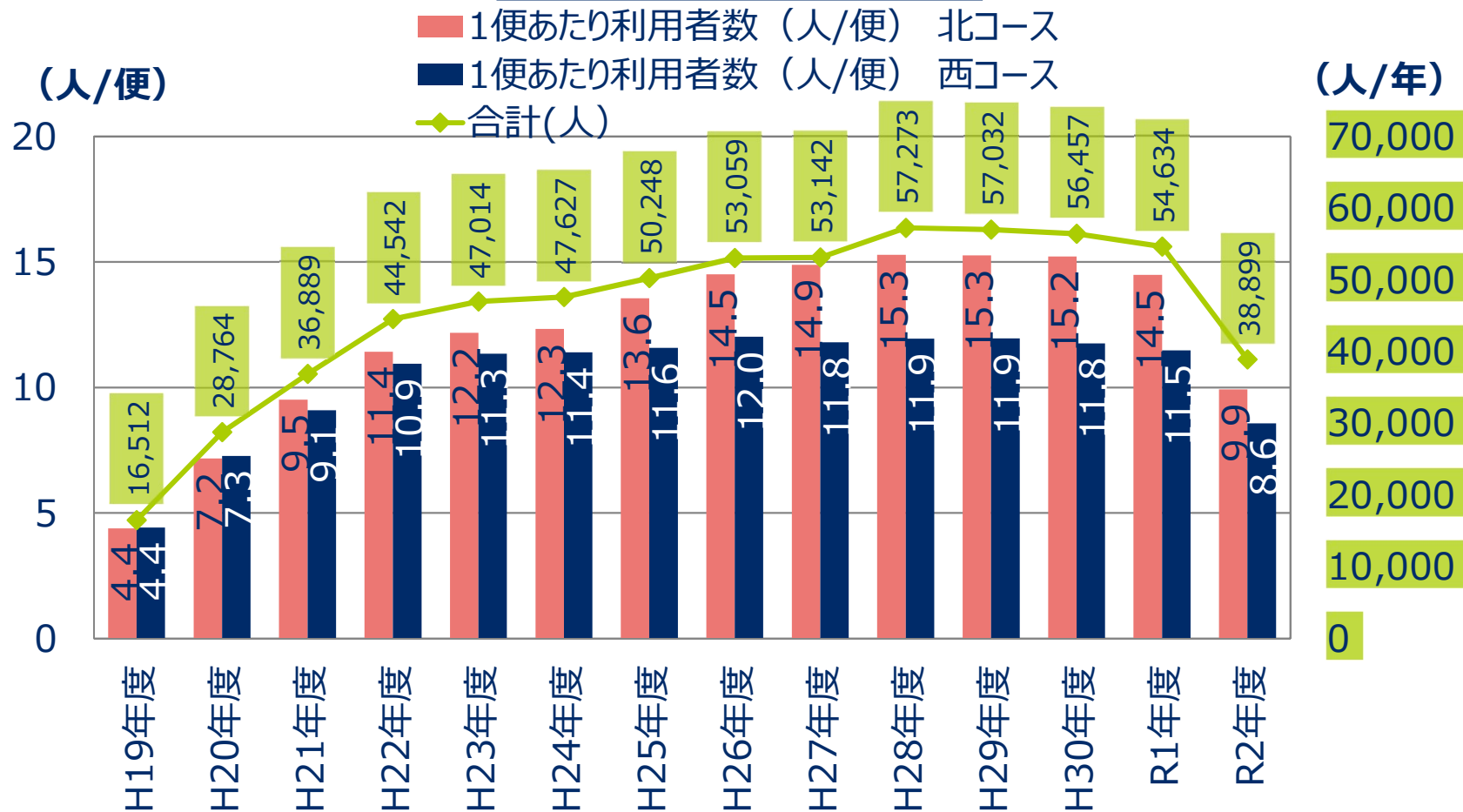
※祝日運行 平成28年度～

○平成28年度から祝日運行を行っているが、平日と比較すると大幅に少ない状況。

2. 利用状況に関する評価



はっぴいバス利用者数推移

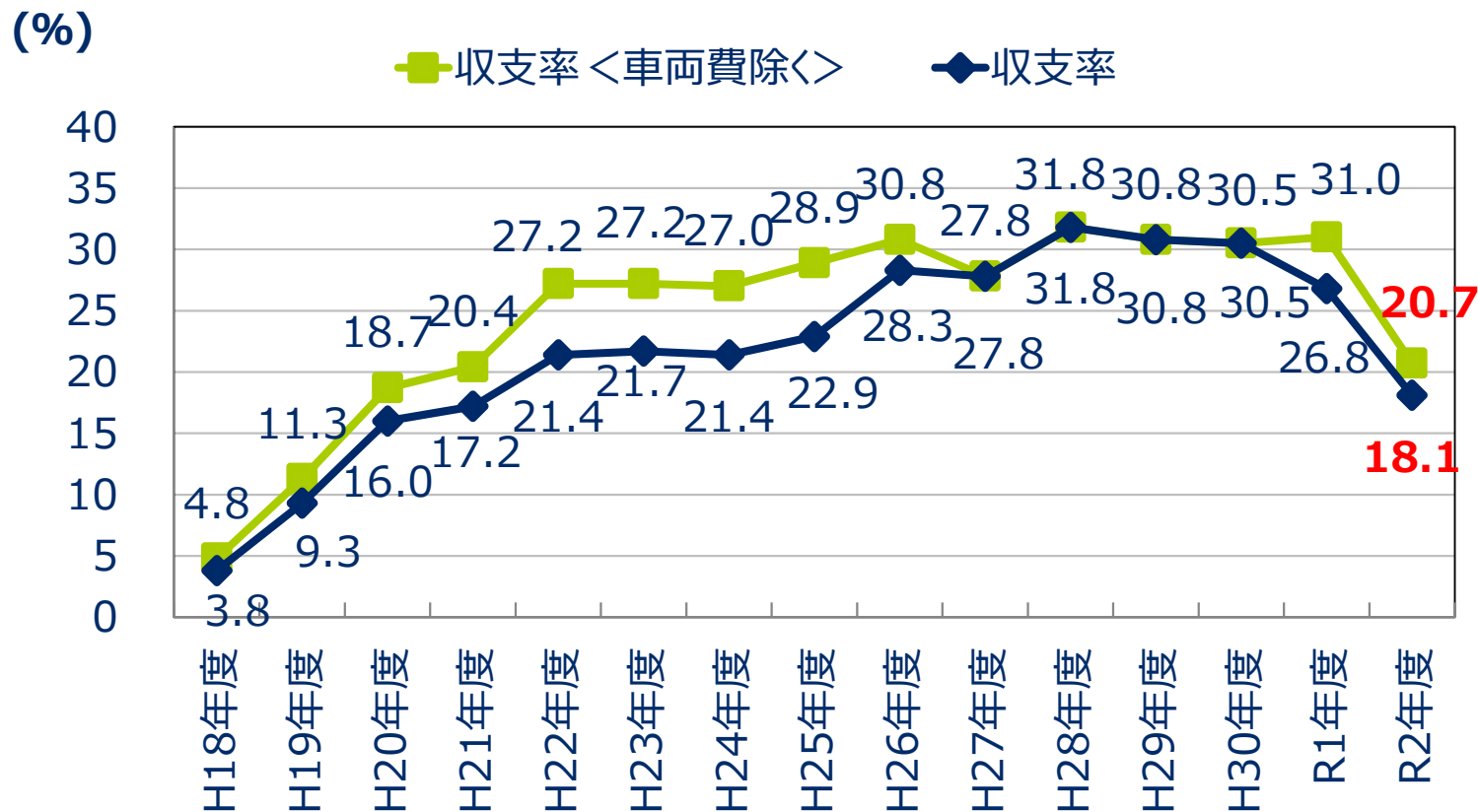


○令和2年度の利用者数は38,899人(前年から▲15,735人、運行日数同じ)で、大きく減少している。

<参考> 収支状況に関する評価



はっぴいバス収支率遷移



○利用者数とともに収支率は減少している。

○令和元年度から車両更新費用のため、収支率が下がっている。

はっぴいバスの事業評価



項目	指標	令和2年度	判定
事業の目的	公共交通空白地域の解消	解消率 89.4%	○
	多様な世代の外出支援	週3.3回 のお出かけのうち、 週2.1回 のお出かけで はっぴいバスを利用	○
利用状況	利用状況（北）1便あたりの乗車人員15.0（人/便）	9.9人 < 15.0人	×
	利用状況（西）1便あたりの乗車人員15.0（人/便）	8.6人 < 15.0人	×
<参考指標> 収支状況	収支率（全体）前年度収支率と比較して改善されたか	18.1% < 26.8%	—

- はっぴいバスのルート変更最終案について
- はっぴいバスの事業評価
- **東部バスの事業評価**

東部バスの事業指標



項目	指標	備考
事業の目的	通勤定期利用者数	
	多様な世代の外出支援	乗込み調査
利用状況	利用状況	1便あたりの乗車人員（※）
<参考指標> 収支状況	収支率	前年度収支率と比較して改善されたか

（※）第21回地域公共交通会議にて、評価指標を変更

1. 事業の目的に関する評価



- **事業の目的が達成されているか**を評価

事業目的は、

①通勤利用

②多様な世代の外出支援

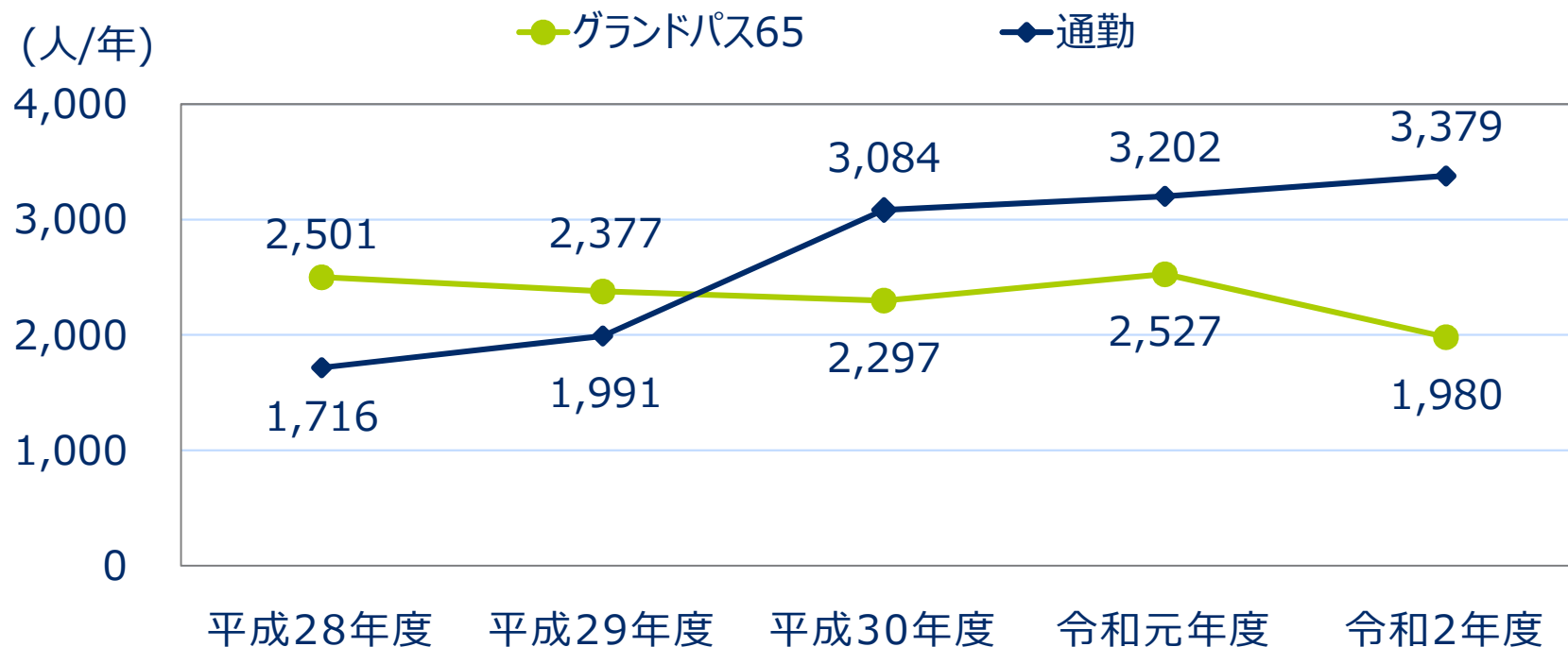
- 事業目的ごとに以下のような評価を実施

事業目的	評価
通勤利用	通勤定期券利用者数
多様な世代の外出支援	利用者の外出頻度の状況を調査 東部バスがどの程度貢献しているか検証

①通勤定期利用者数



通勤・グランドパス65利用者の推移



○ルート変更以降（平成28年8月～）、通勤利用者数は増加傾向にある。

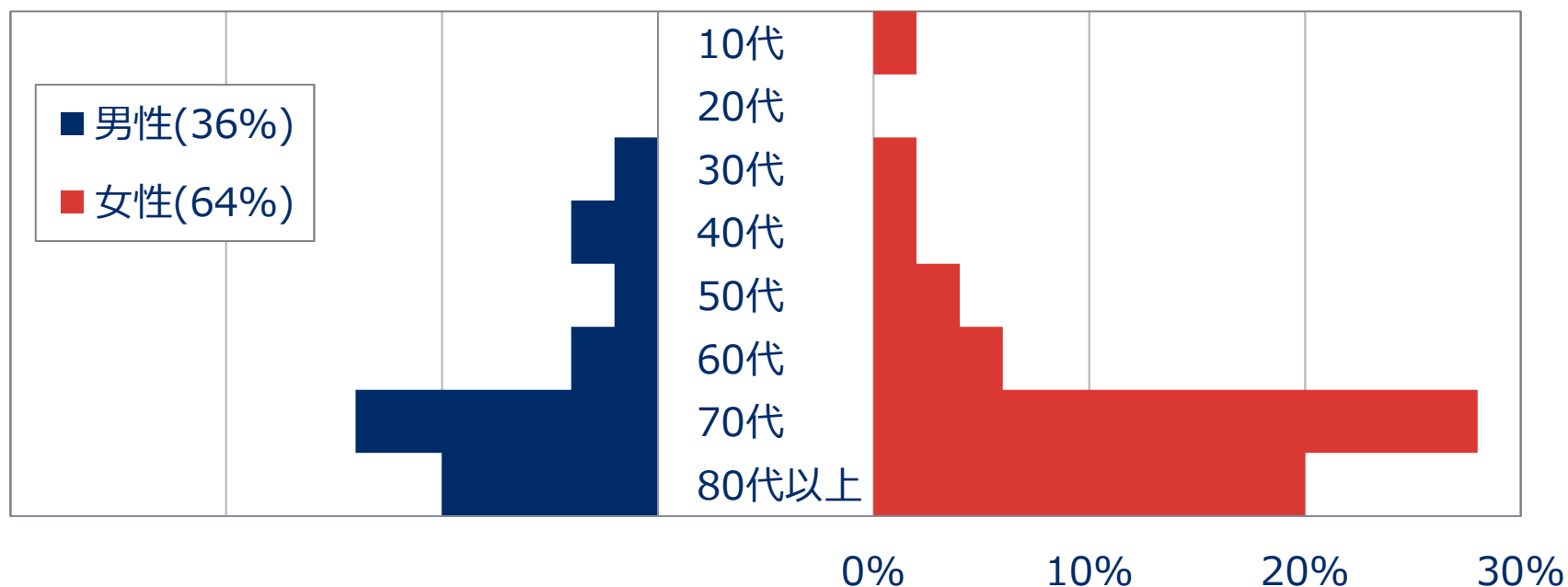
○グランドパス65（阪急バスの高齢者向けフリー定期券）利用者はやや減少傾向である。

②多様な世代の外出支援 (アンケート結果から)



- 東部バス利用者にアンケートを実施 (通勤時間帯を除く)
(昨年度は新型コロナウイルス感染症の状況を鑑み、実施していない)
- ・アンケート実施日：令和3年12/23(木)
- ・回答者：50人 (城の里循環34人、東和苑循環16人)

乗車客属性

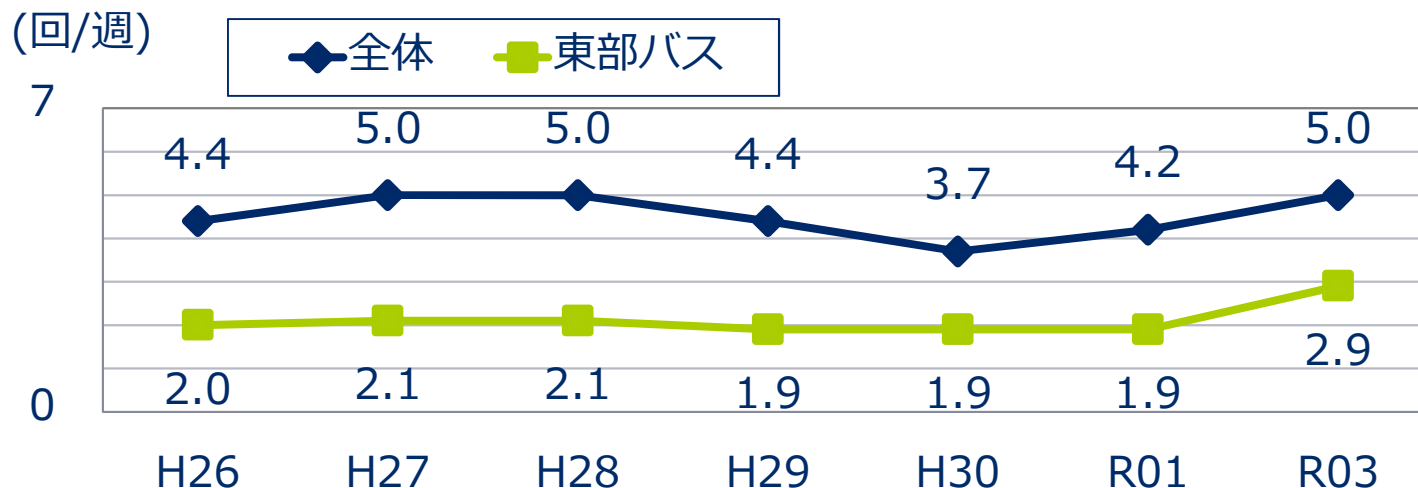


○回答者は女性のほうが多く、60歳以上の方が82%を占める。

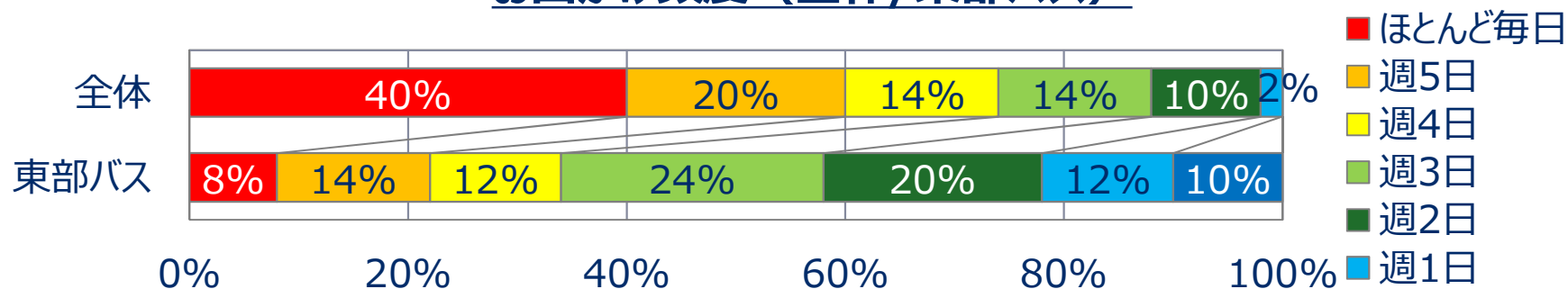
②多様な世代の外出支援 (アンケート結果から)



お出かけ頻度遷移



お出かけ頻度 (全体/東部バス)

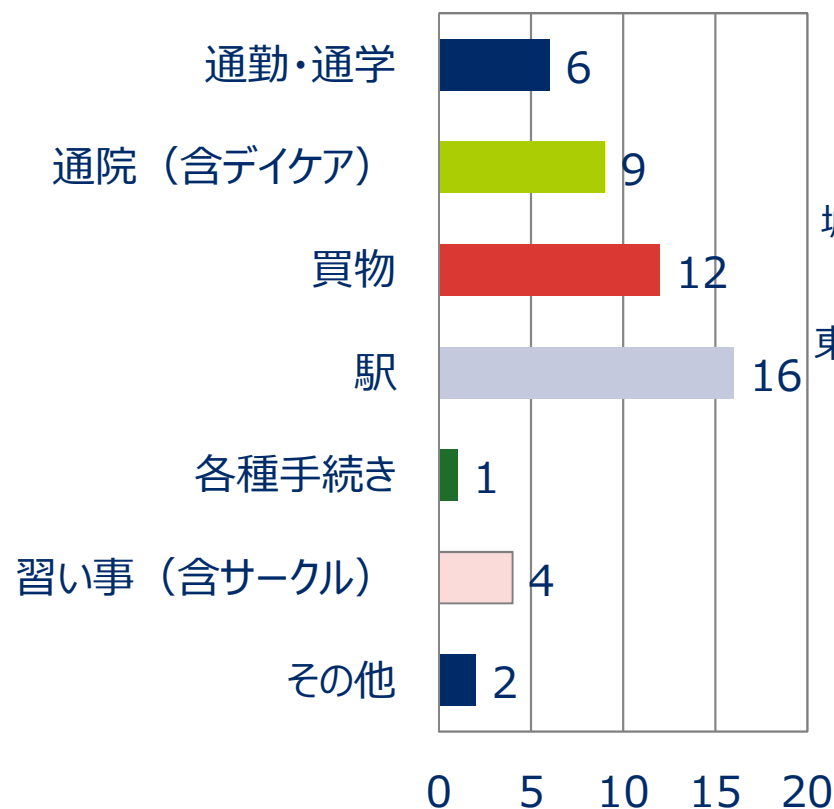


○お出かけ頻度5.0 (回/週) のうち、東部バス利用回数は2.9 (回/週) であり、お出かけの1/2以上はバスを利用している。

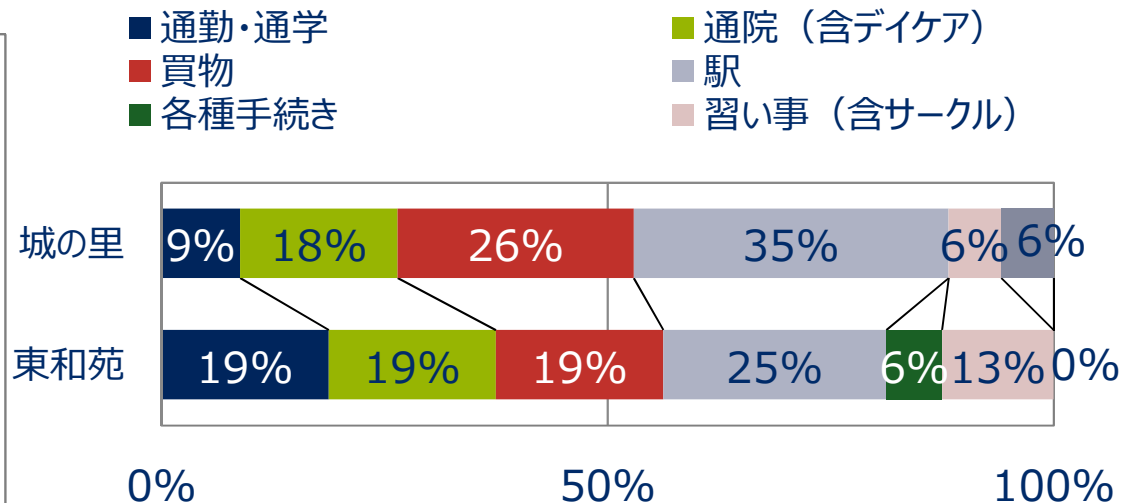
②多様な世代の外出支援 (アンケート結果から)



利用目的 (SA)



利用目的【循環別】



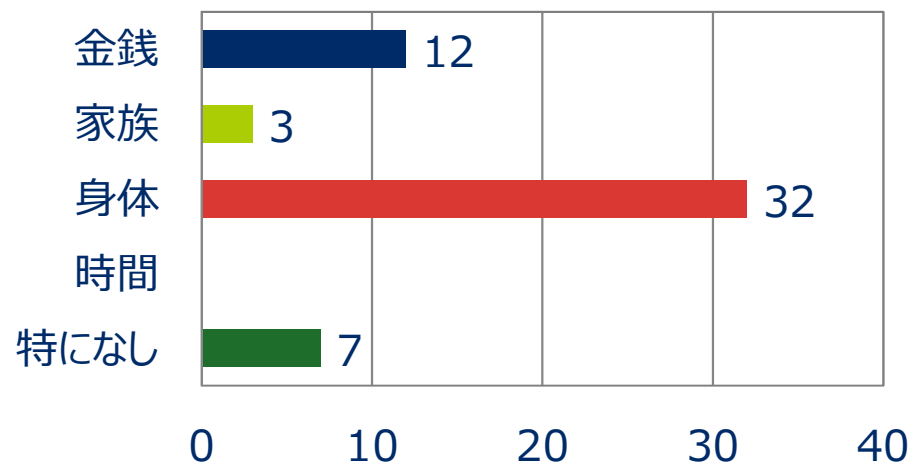
○駅、買い物の利用が多い。

○城の里循環で駅が多く、東和苑循環で習い事が多くなっている。

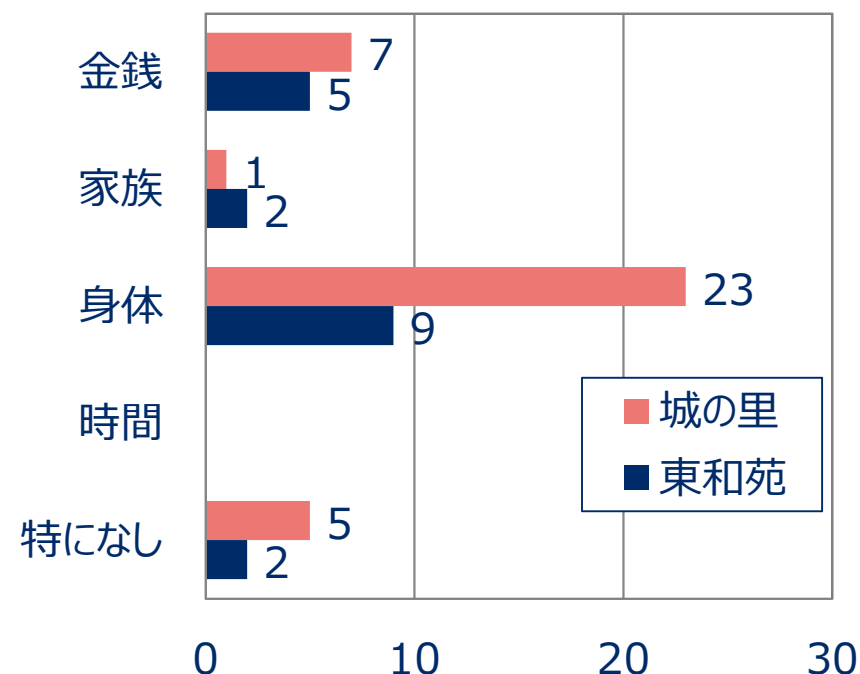
②多様な世代の外出支援 (アンケート結果から)



負担種別(n=50,MA54)



負担種別【循環別】



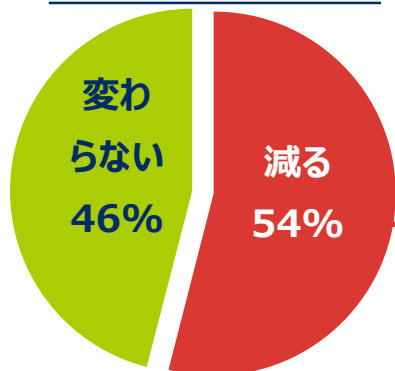
○東部バスがなくなった場合の負担として、「身体」が最も多く、次いで「金銭」となっている。

○特に城の里循環で「金銭」「身体」の回答が多いが、東和苑循環よりも駅から遠く、移動にタクシーや徒歩、自転車を選択する方が多いためと考えられる。

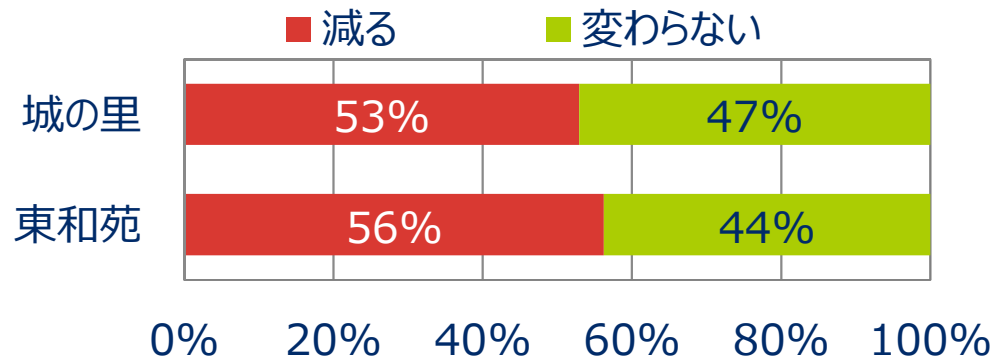
②多様な世代の外出支援 (アンケート結果から)



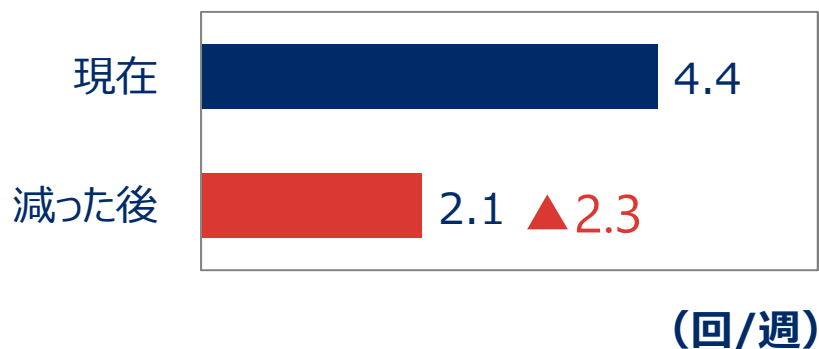
お出かけの変化



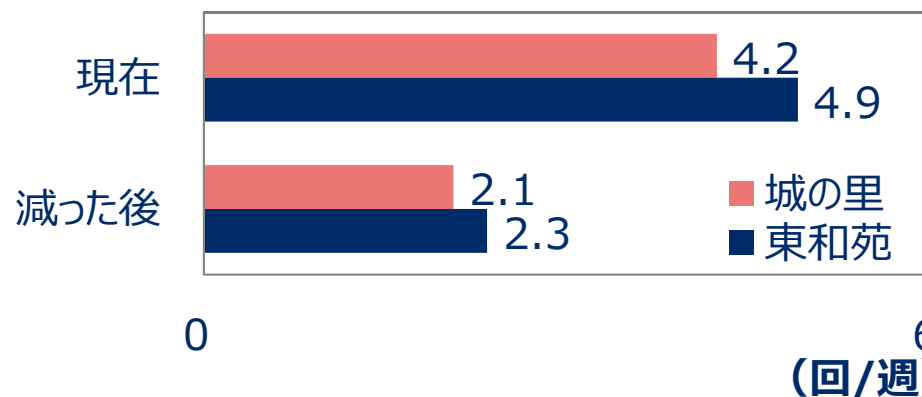
お出かけの変化【循環別】



お出かけ回数の変化



お出かけ回数の変化【循環別】



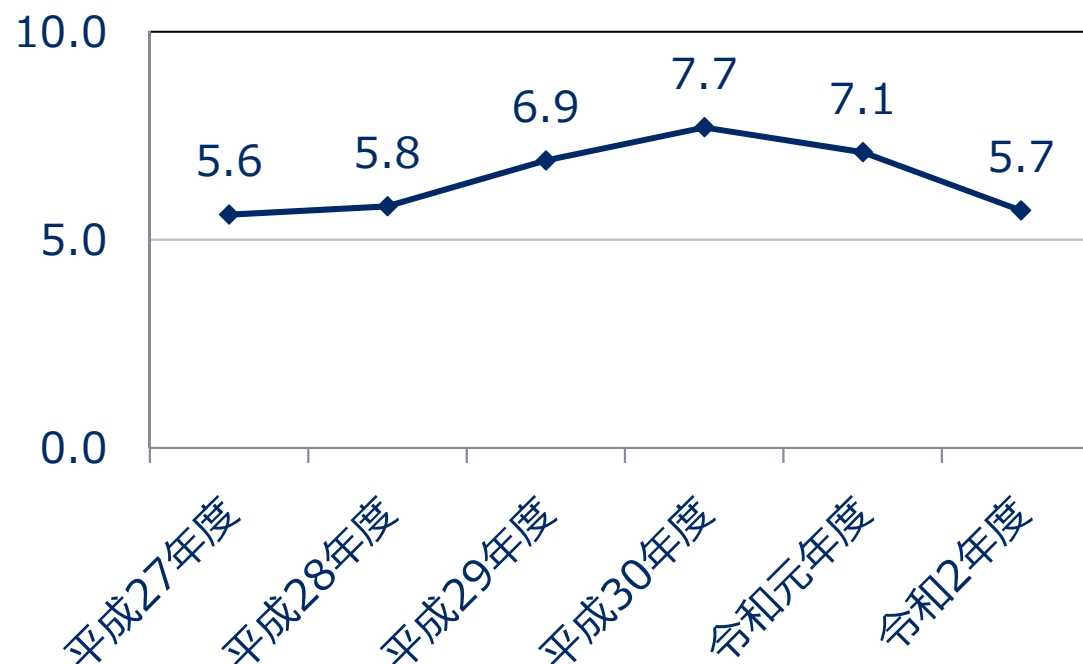
○5割の方が東部バスが無くなった場合にお出かけ回数が減少する。

○循環別では有意な差は見られない。

2. 利用状況の評価



1便平均利用者数（人/便）



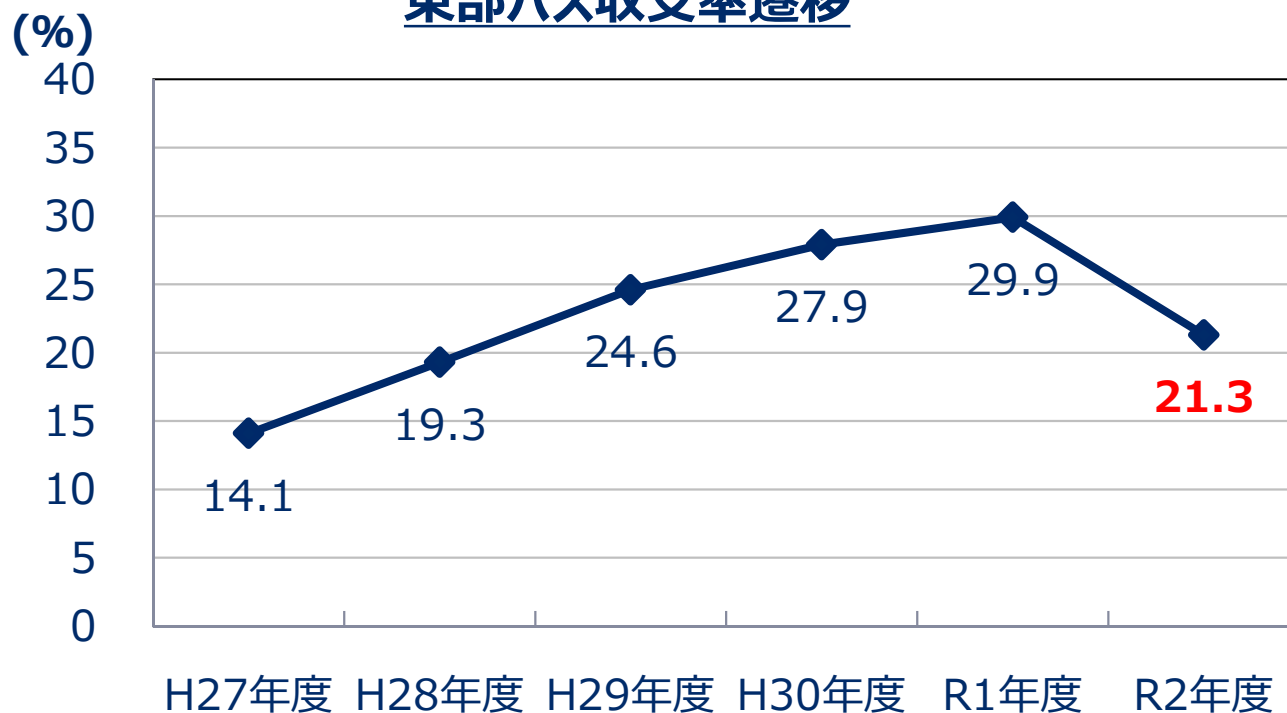
○平成30年度以降、減少傾向にある。

○目標としていた10人/便には満たない。

<参考> 収支状況に関する評価



東部バス収支率遷移



○収支率は下がっているが、はっぴいバス（18.1%）よりも収支率は高い。

東部バスの事業評価



項目	指標	令和2年度	判定
事業の目的	通勤定期利用者数	<u>3,379人/年</u> > 3,202人/年	○
	多様な世代の外出支援	50代以下の利用者がはっぴいバスよりもわずかに多い（通勤時間帯を除いた調査）	○
利用状況	利用状況 1便あたり利用者数	<u>5.7人</u> < 7.1人/便	×
<参考指標> 収支状況	収支率 前年度収支率と比較して改善されたか	<u>21.3%</u> < 29.9%	—